

問 病児・病後児保育の取り組み状況は

答 北ア広域連合を主体に考えている



加藤亮輔議員

【子育て支援策について】

問 未満児保育児の受け入れ態勢と冬季の申し込み、入所数は。

答 保育士を増員し、1室を未満児用に変更し、現在38名が利用。12月～3月の冬季間は、現在55名の希望者があり、11月に入所判定委員会を開催し、最大で51名まで可能。また増加傾向の未満児のため、公共施設を利用して小規模保育施設の整備調査を行い、増築等を考えている。

問 自営業者は労働時間と待機時間が区別できない、この時間も入所基準の時間に認めるべきと考えるか。

答 ひと月64時間以上の労働を常態することが基本。サラリーマンも自営業者も同じにみている。提出書類、聞き取りなどで決める。

問 入園希望者が月64時間労働の場合、すべて受け入れるのか、それとも施設等の関係で断るのか、基本的な考え方は。

答 法の趣旨からいけば預かるのが基本。今冬は1才児22名、2才児23名が希望者全員入園。0才児は、希望者10名の内4名で、希望に添えない状況。

問 一時保育の保育指針と内容は。

答 保護者の疾病・就労・冠婚葬祭などの理由から保育出来ない、10ヶ月から就学前の児童を預かり、季節に合わせた制作活動とおもちゃ、園庭遊び等。保育園の未満児と同じ様に過ごしている。

問 利用理由に保護者の趣味やスポーツ等、保育軽減のためのリフレッシュ保育も可能か。

答 保育のストレス、息抜き等に利用できる。

問 重要伝統的建造物群保存地区の整備計画は

答 未施工の建物、神社の本殿等の修復を

【青鬼地区の保存と活性化について】

問 地区住民との同意のもとで重要伝統的建造物群保存地区(重伝建地区)を観光資源として活用しては。

答 重伝建地区の価値を実感してもらおう観光は必要と考える。しかし、地域の生業や生

活習慣を阻害する観光は、地区の歴史的風致を損ね、農村景観の俗化を招く。規制して住民と観光客の思いを両立させる、良質な観光地振興を図る。

問 青鬼の保存と活性化については、後継者問題と観光客がいながら区域内でお金が回らないのが問題。お善鬼の館を活用して、紫米のおにぎり、加工品の販売。また、重伝建施設を所有者の了解のうえ、宿泊施設に活用

しては。徳島県三好町の重伝建施設は、28年度2500人利用3000万円売り上げています。この様な事業を青鬼区の人と相談しては。

答 今年から集落支援員が加工品の販売を始めた。棚田目的でお善鬼の館は素通り。重伝建地区は重要な観光資源であり、模索しながら対応していきたい。



お善鬼の館を青鬼地区の情報発信基地に育てよう。